

学校説明会で頂いたご提案やご意見へのお答え

(平成30年9月15、16日実施)

9月15、16日に開催しました学校説明会の際には、アンケート調査にご協力いただき誠にありがとうございました。改めて、本校への関心の高さや期待の大きさを感ずるとともに、学校生活を送る上で多くの不安を抱えていること、情報提供が必ずしも十分に行き届いていないことを知ることができました。また、今後、学校運営を改善する上でのヒントも頂くことができました。改めてお礼申し上げます。

皆様の本校へのご理解がより深まるよう、アンケートで頂いたご提案やご意見について、現在の本校の考え方や学校生活の状況をご説明いたします。保護者の皆様向けの回答となっていますので、お手数ですが、お子様に内容をかみ砕いてご説明いただければ幸いです。

なお、「適性検査」や「高志高校」に関するご質問については、近日中に追加掲載いたしますので、今しばらくお待ち願います。

1 教育方針、学校運営

Q 旧帝国大学等の難関大学進学に力を入れるのか、高志学の取り組みなど偏差値にこだわらない教育を目指すのか、高志中が目指す方針を明言すべき。誇りを持つことも良いが、高志高校と藤島高校に対する世間の評価にも耳を傾けてほしい。

A 本校が目指している生徒像は「未来を切り拓く新しい時代を築くイノベーターとなれる生徒」です。その実現のため「270通りの夢の実現」を教育目標とし、3つの柱「高い学力と豊かな人間性の育成」「福井への知識と誇りの涵養」「語学力と国際感覚の育成」を重視した本校独自の6年間の教育システムを組んでいます。ご質問にある「高志中が目指す方針」はこれに尽きます。

難関大学入学には相応（相当）の学力が求められますが、将来の活動の場が県内外、国内外にかかわらず、ローカルとグローバルの双方の視点を持った人間に育つよう高志学を設計し、実施しています。

希望の道に進むために必要な学力をしっかりと身につけることはもちろん、社会に出てから自己実現するために必要な力も中高の6年間に育てることが重要と考えています。

(参考)『思考の整理学』(外山滋比古著、ちくま文庫)の「グライダー」は言い得て妙です。

Q 当初の教育方針・方法を見直した点は何か。また、見直した理由は何か。

A 今までのところ、見直した点はありません。

Q 2～3年生に進級する際にクラス替えを行うのか。また、どのようにクラス編成を行っているのか。

A これまでのところ、毎年、進級のタイミングでクラス替えを行っています。クラス編成に当たっては、男女数や成績等のバランスに配慮しています。

Q 2年次や3年次への編入試験について検討してほしい。

A 本校独自のカリキュラムにより学習を進めており、また、他校とは進度も異なるため、途中から編入することは難しいと考えています。

2 中学校の学校生活【全般】

Q 中学生生活・教育についていけなくなった生徒に対し、補習以外のケアを行っているか。

A 担任や学年主任のほか、養護教諭や教育相談員、スクールカウンセラー等が、生徒や保護者と相談し、それぞれの状況に応じた対応を行っています。

また、必要に応じて専門スタッフを配置しています。(H27～：教育相談員、H29～：介助員、H30～：校務支援員)

Q ADHDなど発達に障害のある生徒に対して、どのような配慮を行っているのか。また、こうした生徒に対応するための研修を教員は受けているのか。

A 福井県では、発達障害のある生徒が中学校に入学する際に、小学校での支援の状況が記録されている「個別支援シート」を小学校から引き継ぐことになっています。さらに、本校においては入学前にも、保護者との事前面談(希望による)や、医療機関から助言をいただく機会も設けています。

また、特別支援コーディネーターとして配置されている教員が中心となって、校内外で計画的に研修が受けられるような研修体制も整えています。

Q 高志中学に適応できなかった場合、地元中学校に転校することはできるのか。

A 保護者の転勤など、何らかの理由により本校を転校しなければならなくなった場合には、地元の中学校に転校(転入)することとなります。

なお、これまでのところ、本校への不適応を理由に転校したケースはありません。

Q 教科書は無償か。

A 中学校は義務教育なので、他の中学校と同様に、教科書は無償です。ただし、参考書や問題集、辞書などの副教材については購入いただいています。

Q 就学援助を受けることはできるのか。

A 経済状況等、援助対象となる条件に合えば、市町立の中学校同様、援助を受けることができます。援助は居住している市町からの援助となり、手続きは市町ごとに多少の違いがあります。

Q 学校の校舎の使い方はどうか。

A 中学生の教室は、3号館の3階フロアに学年順に9クラスを配置しています。

ほとんどの学校施設を、中学生と高校生が共同で使用しています。中高が別々に使用しているのは、保健室、相談室、生徒会室です。中学生のみ使用しているのは技術室です。

Q 在校生による学校生活に関するアンケート結果があれば教えてほしい。

A 毎年、生徒や保護者等に対して、スクールプランに掲げた項目についてアンケート調査を行い、その結果をもとに次年度の学校運営を改善しています。平成29年度に中学生に行ったアンケート結果は次の通りです。

(全学年)

①興味関心のある事柄について、調べ学習や読書を行うことによって、

A 新たな探究テーマが見つかり自ら学ぼうとする意欲が非常に高まった。【28.5%】

B 新たな探究テーマが見つかり自ら学ぼうとする意欲が高まった。【65.4%】

(1年生)

- ②私は、英語の授業や朝活動で学んだことを活用して、
- A 授業や授業以外でも英語で話そうと努力した。【53.5%】
 - B 授業のなかで英語で話そうと努力した。【41.9%】

(2年生)

- ③私は、英語の授業や朝活動の学習によって、
- A 英語で地域の事柄を説明することに大いに自信を持つことができた。【24.7%】
 - B 英語で地域の事柄を説明することにある程度自信を持つことができた。【65.2%】

(3年生)

- ④私は、英語の授業や朝活動の学習によって、
- A 英語で自分の考えを表現することを大いにできるようになった。【22.4%】
 - B 英語で自分の考えを表現することをおある程度できるようになった。【68.2%】

(全学年)

- ⑤私は、学校行事や部活動、委員会や学級活動に積極的に参加し、学校やクラスをよくするように
- A 積極的に取り組んだ。【40.2%】
 - B 取り組んだ。【52.5%】

(全学年)

- ⑥私は、日常生活や学校行事などにおいて高校生と交流する中で、高校生の行動や考え方のよい所を見習い、自分の行動に
- A 積極的に取り入れた。【18.0%】
 - B 取り入れた。【51.3%】

(1年生)

- ⑦私は、「高志学」を通して、今まで知らなかった「ふるさと福井」を
- A たくさん発見できた。【64.0%】
 - B 発見できた。【34.9%】

(2年生)

- ⑧「高志学」を通して、「ふるさと福井」の未来・可能性や自分自身の将来について
- A 大いに考えることができた。【39.3%】
 - B 考えることができた。【55.1%】

(3年生)

- ⑨「高志学」を通して、「ふるさと福井」の課題解決や自己の関わり方について
- A 具体的な手立てを提案できた。【40.7%】
 - B 具体的な手立てをどちらかという提案できた。【41.9%】

3 中学校の学校生活【勉強】

Q 宿題の量はどのくらいか。

A 複数の生徒に尋ねたところ、平日の場合、宿題に要する時間は1～2時間程度とのことでした。本校は他の中学校よりも授業時数が多いので、それだけ宿題や予習なども多くなります。

Q 中学生の勉強時間は、平日とテスト前でどのくらいか。

A 今年4月、学力推移調査の際に行った「学習実態調査」によると、中1（中2、中3）の平日の平均勉強時間は82分（80分、82分）、休日は117分（150分、157分）でした。テスト前についての調査データはありませんが、部活動を中止にしますので、普段よりも多く勉強していると考えています。

Q 男女比はほぼ同じですが、学力の順位によって男女比が大きく変わることはありますか。

A 学力の分布に性別による差は見られません。

Q 二期生以降の成績はどのような状況か。

A 全国学力・学習状況調査（文部科学省、中3対象）やSASA（県学力調査、県教委、中2対象）については、1期生と同様に2期生も県平均を大きく上回っています。（3期生はいずれも未受験）学力推移調査（ベネッセ、中1～3対象）については、学年により、教科により、若干の差は見受けられますが、概ね右肩上がりです。

Q ほとんどの人が英検準2級を合格しているけど、していない子は省かれることがありますよね。英語を学んで外国人の方々とふれあうことは確かに大事だとは思いますが、ふれあう目的とは何でしょうか。英語を学ぶことはそんなに大事でしょうか。

A 1期生は、準2級に合格できなかった生徒も含めて全員が高志高校に進学しました。英検に合格していないことを理由に特別な（不利な）扱いを行うことはありません。

英語の重要性についてですが、小学生の皆さんの中には、現在も将来も英語を必要とすることなく、また関わることもなく生きていける人がいるかもしれません。しかし、皆さんが大学を卒業して働き始める10年後、社会人として活躍している20～30年後の世の中を想像すると、活躍している場所が福井にしる国内にしる海外にしる、今以上に英語が広く使われていると思われます。ひょっとすると人工知能が進歩して、瞬時に自動翻訳や同時通訳が可能になるかもしれませんが、これを理由に英語学習を軽視するのは早計ではないでしょうか。将来、必要となる語学力（英語力）を中高で身に付けてほしいと思います。

また、外国人とコミュニケーションするには、ツールとして言語が必要ですが、さらに、異なる文化・価値観を理解することも重要です。この国際感覚をつかんでもらうため、中国系やマレー系、インド系、欧米系など他民族国家であるシンガポールに3年生全員が3泊5日の研修に行き、現地の学生や中高生、経済人と接し、大きな刺激を受けています。

4 中学校の学校生活【部活動】

Q 部活動のあり方と先生方の負担について問題になっているが、高志中学校では部活動の内容（種類）が変わる可能性はあるのか。

A 部活動は、体力や技能の向上だけでなく、生徒同士や教員との人間関係づくり、学習意欲の向上にも貢献するものであり大きな教育的意義があります。しかし、部活動業務が顧問や学校にとって大きな負担となり、その結果、個々の生徒への指導や学校運営、学級運営に悪影響を及ぼすことは避けなければなりません。

全国的には、今年3月にスポーツ庁が部活動のあり方に関するガイドラインを策定しました。その中で「校長は生徒や教師の数を踏まえ、適正な数の運動部を設置する」「校長は生徒が安全に活動を行い、教師の負担が過度とならないよう指導する」ことなどが示されました。

福井県教育委員会では、秋ごろを目処に「部活動の在り方に関する方針」をまとめることとしており、本校においても、全国や県の方針に基づき、本校の実情に応じた部活動のあり方について検討を進める予定です。検討に当たっては、例えば、「教員が新たな課題に対応するための時間は十分か」、「チャレンジする生徒への対応は可能か」、「安全確保の面から教員数は問題ないか」「充実した活動を行う上で部員数は確保されているか」などの本校の実情を慎重に考慮する必要があります。

これまで、毎週火曜日を部活動休止日としたり、土日いずれかを部活動休養日とするなど、必要な対応を行ってきましたが、今後も、本校としての部活動のあり方について継続的に見直しを行っていきたいと考えております。その結果として、現在の15の部活動が、4月の入学時や入学後の3年間に変わる可能性があることを予めご承知おき願います。

Q 部活動について、部ごとに活動状況を教えてほしい。

A 部ごとの活動状況については、ホームページの部活動コーナーをご覧ください。

ここでは、すべての部活動に共通することを紹介します。

原則として全生徒が部活動に加入することとしています。毎週火曜日を部活動休止日に、また土日のいずれか1日を部活動休養日としています。また、部活動終了は17時45分なので、6限授業の日には2時間強、7限の日には1時間強と、活動日数や活動時間は限られています。

しかし、活動時間は少ないながらも、地区大会や県大会で優勝したり、北信越大会、全国大会に団体や個人で出場するなど、非常に健闘しています。

部活動数が15と数多くあり、また部員数に多少偏りがあることから、中には、団体出場する際に他校と合同チームを編成している部もあります。

Q 部活動は6年間、同じ部を続けるのか。途中で変わることはできるのか。

A そのまま続けることもできますし、変更することもできます。

Q 英語に関する部活動を設け、授業以外でも継続的に英語に触れるようにしてはどうか。

A 英語の力を伸ばすには、より多くの時間、英語に触れることが重要なことから、英語の授業を他の中学と比べ1時間多い週5時間行ったり、毎朝NHKラジオ基礎英語を聴いたりしています。また、課外活動でも、例えば英語ディベート大会や英語弁論大会に出場しており、夏休みや放課後に準備活動を行っています。

英語関連の部活動を新設することは、本校の特徴を活かした素晴らしいアイデアですが、部活動として活動するとなると、教員の指導体制や、他の部活動を含めた部員数の状況など、学校運営全体から検討する必要があります。残念ながら、現状では部活動数を増やすことは困難な状況であることをご理解願います。

Q どの中学校にもほとんど女子バレーボール部があるが、今後、女子バレーボール部ができることはあるのか。

A 女子生徒がチームでプレーする部活動がない本校にとって貴重なご提案ですが、部を新設するためには、教員の指導体制や、他の部活動を含めた部員数の状況など、学校運営全体から検討する必要があります。残念ながら、現状では部活動数を増やすことは困難な状況であることをご理解願います。

Q 高校にしかない部活があるけど、中学にはなぜないのか。

A 高志高校は、生徒が約800名、教員が約60名、そして部活動が33あります。中学校は生徒が270名、教員が18名、そして部活動が15あります。中学校に比べて高校の規模が大きいため、部活動の種類も多くなっています。

Q 中学と高校のサッカー部と一緒に練習することはあるか。

A 運動部は、ボールの大きさが違ったり体格差があるため、中学生と高校生と一緒に活動できないものがあります。サッカー部の場合は、中高が別々に練習を行っています。

Q 学校以外でのクラブ活動は可能か。

A 社会体育やクラブチームへの参加については配慮します。

5 中学校の学校生活【生徒指導】

Q いじめはあるのか。

A 相手に対する心配りが足りないために、からかいや相手の嫌がることを行ったり発言したりするトラブルはありました。クラス担任や学年主任が迅速に事実関係を把握し、生徒や保護者に対応しています。また、状況によっては校長が当事者と面談を行うなどしており、重大ないじめに発展したことはありません。

Q 担任の先生は家庭訪問を行っているのか。

A 夏休みに全ての生徒を対象に、担任や副担任、学年主任が家庭訪問を行っています。

Q 制服はどのように購入するのか。

A 2月16日(土)が合格者登校日となっています。制服の採寸を行い、注文を行っていただきます。受け渡しは3月上旬に予定しており、本校において代金のお支払いと物品の受け取りを行っていただきます。ただし、男子制服については、お近くの店舗で購入いただくことも可能です。

なお、男子半袖カッターシャツと、女子夏用制服については、5月中旬以降の受け渡しとなります。

Q 服装や頭髪に関する校則はどのような内容か。

A 主な内容は次の通りです。

服装について

- ・華美に流れたり、流行を追うような服装は厳に慎み、常に端正清楚を心がけること
- ・ソックス：白色無地でくるぶしが隠れる長さのもの
- ・ストッキング：黒または肌色で無地のもの
- ・履き物：通学用は華美ではない革靴・運動靴

頭髪について

- ・清潔な印象を与える髪型を心がけること
- ・女子：前髪を目にかけない。髪が肩にかかる場合は髪留でとめる。
- ・男子：頭髪はまゆ、耳、えりにかけない。

Q 自転車通学可能距離は、直線距離なのか。

A 直線距離で概ね3km以内、通学時間が約20分以内を条件としています。

6 中学校の学校生活【給食】

Q 給食は、校外の給食センターで調理したものを利用しているのか。

A 本校の職員（栄養教諭1名、調理スタッフ8名）が給食棟1階の厨房施設で調理しています。

Q 給食のアレルギー対応は行われているのか。

A 予め全校生徒にアレルギーの調査を行い、個々の生徒に対応した給食を提供しています。アレルギー対応食は専用の調理室で調製しています。

7 他中学との違い

Q 公立中学校との違いは何か。

A 最も大きな違いは授業時間数です。1年生と2年生は週2日、3年生は週3日を7限授業としており、3年間で他の公立中学校に比べプラス350時間となっています。さらに、土曜特別授業や夏休みのステップアップ講座などを1～3年生対象に行うなど、教科書には出てこない基本的なことを掘り下げたり、高校や大学で学ぶようなハイレベルな内容に触れたりするチャンスが豊富に設けられています。

また、県内各地区（101小学校）から広域的に集まってきているため、登下校では交通機関の影響を受けやすいことも他の中学とは異なる点です。今年の大雪の際には、福井市内の中学校が授業を行っていた日でも、公共交通機関が運休していたため休校する場合があります。

学費の面では、シンガポール研修の費用や、通学費用がプラスアルファで必要となります。

8 学校説明会の内容

Q 大人向けの説明ばかりで、子どもが入りたいと思える内容になっていない。例えば、大人向けに出願手続きについて説明している間、子ども達を対象に校内見学・部活動見学を組んでもらいたい。

A 「保護者向けの内容だった」「小学6年生にとって難解だった」「子どもが興味や関心を持てる内容でなかった」とのご意見を多数いただきました。お越しいただいた皆様、申し訳ございませんでした。

今後、高志中学校のホームページを使って、中学生の活動の様子をどんどん提供していきますので、少しでも参考にしていただければと思います。

また、頂いたご意見は、来年度の学校説明会の改善に役立たせていただきます。

Q 校内見学やオープンスクール、個別相談を実施してほしい。

A 中学生の授業や部活動の様子、学校施設などを、小学生の皆さんに見学いただく機会を設けられないか検討しているところです。企画が決まりましたら、各小学校にお知らせするとともに、高志中学校のホームページでもご紹介します。

また、個別に相談されたいことがございましたら、電話やメールなどによりお問い合わせいただければ、対応させていただきます。

Q 小学6年生になってから学校説明会に参加するのではなく、4～5年生の時に今回のような機会があると、進学に向けての心の準備ができ、意識も高めることができるのではないか。

A 学校説明会や校内見学、オープンスクールについて企画する際に、対象学年や実施時期検討の参考にさせていただきます。

Q 高志中の生徒から直接、「入学して良かったこと」や「悪かったこと」について生の声を聞かせてほしかった。

A 9月15、16日は前期中間試験の準備のための部活動休止期間に入っていたため、中学生は出席せずビデオメッセージを紹介させていただきました。頂いたご意見は、来年度の学校説明会の改善に役立たせていただきます。

Q 県内の中学生にとって高志中の存在感が薄い印象がある。リーダーを目指す志の高い高志中生の姿を県内中学生に対して見せてあげてほしい。

A 本校生徒の活動を評価いただきありがとうございます。これまで、部活動（大会、発表会）や課外活動（理数グランプリ、英語弁論大会）などで他校生徒と交わることはありましたが、本校の学習活動やその成果について、本校生徒が他校生徒に直接紹介する機会はありませんでした。

まずは、他校の先生方にご覧いただく機会を設けるとともに、他校生徒に紹介する機会についても検討したいと思います。

Q 学校説明会の参加者数と、高志中学校の受験希望者数どうか。

A 9月15日と16日の参加者数（児童、保護者）は789人（364家族）でした。
このうち、入学希望は265家族（76%）、検討中は80家族（23%）でした。

Q 学校紹介ビデオの音声聴き取りにくかった。また、コマの進み方が早すぎる。

A 行き届かなかった点が多々あり、申し訳ございませんでした。頂いたご意見を参考にして改善を加えたいと思います。

Q 館内が暑かった。休憩の回数を増やすとか風通しを良くするとか、配慮してほしい。

A 蒸し暑さの中で長時間にわたってご参加いただき、ありがとうございました。また、申し訳ございませんでした。休憩の取り方を工夫したり、説明会の回数を増やすことにより参加者数を減らして、空調の整った場所で開催するなど、改善方法について検討いたします。